

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>1 「勉学を第一義とすること」を踏まえ、質の高い学力を育成する。</p> <p>・知的好奇心旺盛な生徒に、本質に触れる質の高い授業を提供する。生徒の主体性や対話力を高める指導法の研究・改善に努めるとともに、生徒1人1台端末を効果的に活用する。新しい大学入試で求められる力及び大学卒業後もイメージし、過年度生も含めた生徒の高い進路志望の実現を図る。</p>	<p>① 授業において「本質に触れる指導」「生徒の主体性や対話力を向上させる指導」を目指す。そのために、「本質に触れる指導」をテーマとして生徒1人1台端末を活用する研究授業を、各教科や少人数のグループ単位で行い、授業改善に取り組む。</p>	<p>「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、加えた値αを算出する。</p> <p>① 「よくあてはまる」 ② 「ややあてはまる」 ③ 「あまりあてはまらない」 ④ 「全くあてはまらない」</p> <p>αの値が、 A 3.60以上 B 3.55以上 C 3.50以上 D 3.50未満</p>	<p>[判定] A 3.64</p>	<p>・12月に実施した授業評価で、「授業が充実しているか」の質問に対する全体の平均が3.64であった。昨年同時期3.64と比べて変化なし。一昨年同時期3.62と比べて上昇している。7月実施の授業評価に対しては、ほぼ12月と比べて変化がなく、各教科ともに高い結果であった。</p> <p>・授業で扱う教材の教員間での共有化が進んだことや、「本質に触れる授業」をテーマにした研究授業を行う等、これまで以上に授業改善がなされ、生徒が主体的、能動的に参加する授業になっているからだと思われる。</p> <p>・今年度から新学習指導要領の生徒が入学し、3観点の評価の導入もあり、今まで以上に思考力、判断力、表現力を伸ばす授業の研究を行っていることも、高い評価の要因の1つと思われる。</p> <p>・来年度はさらに研究授業の内容を充実させ、さらなる授業改善につなげていきたい。</p>
	<p>② 生徒に、模試や大学入試の分析結果を提供し、大学・学部研究を深め、難関大学を志望する意欲を高める。特に、3年生には、東大・京大・医学部説明会や補習など、第1志望を貫く集団づくりを進める。また、共通テストに向け、習熟度別授業の実施や校内模試問題の研究により深い思考力の育成を進める。</p>	<p>東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	<p>[判定] A 東京大学 10人 京都大学 15人 国公立大学 医学部 23人 合計 48人</p>	<p>・東大、京大、医学部説明会を6月、10月に行った。さらに外部の難関大別模試を夏と秋に受験させ、また志望大学別の補習や添削指導も実施し、これらのことを通して難関大学志望者の集団作りを行うことができ、高い意識付けや学習意欲を高めることができた。</p> <p>・1月末から2月初めに東大、京大出願者に対して外部の実験テストを受験させ、学力向上を図った。</p> <p>・1、2年次から高い目標を持たせることと、自分で目標に向けて自走できる指導を継続したい。</p>
	<p>③ ホーム担任を中心に、年間6回以上の個別面接指導を実施し、文理選択を含め自身の進路について考えさせる。また、学習時間調査の結果も踏まえた指導により、家庭学習の定着を図る。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[判定] B 92.6%</p>	<p>・5~6回程度の面談を終えている。時期に応じた学習アドバイスや生活相談ができるよう、週に1度の学年会で確認事項や声掛けのポイントなどを共有した。具体的には、1学期は3点固定、2学期は課題の提出、3学期は志望校の設定をメインに声掛けを行った。</p> <p>・休日を上手に過ごせない生徒に対し、能動的に学習に向かえるようサポートを継続していきたい。</p>
	<p>④ ホーム担任は、年間5回以上の個別面接指導を通して、高い進路志望の確立を図る。また、学習時間調査の結果も踏まえた指導を行い、家庭学習の定着を図る。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[判定] B 94.1%</p>	<p>・5~6回の面談を通し、時期及び各生徒に応じた面談を実施した。目標大学の設定、確認、学習に関するアドバイス、メンタル面のケアなどが主な内容である。</p> <p>・修学旅行実施後、3年生に向けた準備期間であることを学年団として共有し、生徒もこれまで以上に前向きに学習に取り組むようになってきている。</p> <p>・担任のみならず、進路指導課との連携を密にしなが、今後も各生徒に応じたきめ細やかな指導を行ってきたい。</p>
	<p>⑤ 授業内容をより充実させるとともに、放課後補習および個人添削指導等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開していく。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者数が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満</p>	<p>[判定] A 難関10大学 91人 国公立大学 医学部 23人 合計 114人</p>	<p>・学年と教科、進路指導課が連携しながら、生徒一人一人の志望や学力に合わせた指導を展開している。授業の質を高めつつ、放課後補習や個人添削によって、最難関大学志望者には高い志望を安易に下げない強い気構えを構築できたと考える。また、全体に対しても個人面談を効果的に実施し、メンタル面へのサポートやケアを行った。今後も将来のビジョンを持たせながら志望校合格への強い気持ちと学力をつけさせる指導を進めていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>授業評価において主体性の項目がやや低い。家庭学習時間の減少も気になる。先生の授業が良くても生徒に能動的モチベーションが無いと難しい。学年やコースによる違い等、より高次の分析が必要である。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>休日の学習時間が減少している。スマートフォンの利用とも関係しているので、次年度は新入生に入学式前のオリエンテーション時に情報モラル教育を行う。</p>			

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>2 探究活動プログラムの進化・発展に努める。</p> <p>・これまで積み上げてきたSSH・SGHプログラムを進化・発展させるとともに、2つのプログラムを融合させるなど新しい探究活動プログラムを研究する。そして、その指導法を本県高等学校に波及させる。</p>	<p>① これまで取り組んできた科学的な課題研究活動を進化・発展させることで、生徒の多面的・多角的なものの方、探究する力、思考する力、行動する力の向上を図る。また、普通科普通コース理型のプロジェクト型課題研究では、3年間を通したプログラムを確立し、普通科文型やSGコースのプログラムとの融合を図る。</p> <p>② 課題研究を軸とした探究型学習プログラムの改善を図り、より「文理融合」を強化したカリキュラム開発を行う。また、グローバルリーダーに必要な種々の能力の育成を目標とし、その達成のために事業を展開する。</p>	<p>SSH・SGHアンケートにおいて、「複数の視点で物事や課題を考察する」態度、「生まれた疑問や関心について、自ら解決しようとする」態度、「エビデンスをもとに考察する」態度、「必要だと気づいたことに対し自ら行動・挑戦する」態度を身につけているかという各項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合の平均が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>『SG探究基礎』（1年）『NS探究α』『SG探究』（2年）『NS探究β』『SG探究活用』（3年）において、グローバルリーダーに必要な「目標の達成に向けて、考えや価値観の異なる他者とも協働しながら物事を進め、貢献する力」および「自分の考えを相手に論理的に表現する力」を身につけているかという項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」とする生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>[判定] B</p> <p>全体 85.9%</p> <p>1年 88.4%</p> <p>2年 79.8%</p> <p>3年 88.0%</p>	<p>・今年度はコロナによる制約が緩和され、海外研修を始め対外的なSSH事業をほとんど計画通り進めることができた。今後も直接見る、聞くという体験から得られる気づきや学びの深まりを重視し、SSHの取組を実施していきたい。</p> <p>・課題研究活動に関しては、来年度より普通科2年生普通コースでも課題研究に取り組む時間が、これまでの週1時間から2時間となる。そのため、現在普通科普通コース課題研究の体系的なプログラムの確立に向け多くの教員が関わってその内容を検討している。次年度は試行錯誤しながらの実施となるが、柔軟性を持って土台づくりを進めていきたい。また、SGコースとの協働を進め、カリキュラム開発に取り組んでいく。</p> <p>・今年度に入り、これまでの2年間に見られたコロナ禍の制約が徐々に軽減されたこともあり、SGH推進室の事業推進範囲を以前の状況に近いところまで戻すことができた。</p> <p>・この回復と歩調を合わせるように、文部科学省のSGH事業終了から3年が経過した今、本校の課題研究指導は新たな局面に入ろうとしている。具体的には、SGコース以外の生徒たちもより体系的に、より深く活動に従事できるように、普通科普通コースの課題研究フォーマットを新しく作り直す必要があり、その土台づくりに多くの教員が関わることで、学校全体で課題研究を盛り上げていきたいと考えている。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>探究活動が、県内外の学校との共催や外部施設の利用等で活発に行われている。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>県内外の学校や研究機関、地域と連携してより充実させていく。</p>			
<p>3 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。</p> <p>・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。</p>	<p>① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、グローバル人材となる資質を育成する。</p> <p>② 基本的な生活習慣の確立を図ることを目的に、以下の挨拶指導を徹底する。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・職員室等の入室マナー ・授業の開始、終了の挨拶</p>	<p>「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>「私は、外部からの来校者に対してしっかりと挨拶や会釈をしている」と答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満</p>	<p>[判定] B</p> <p>87.0%</p> <p>[判定] C</p> <p>83.9%</p>	<p>・今年度の「生き方講演会」は、金沢大学融合研究域教授堤敦朗氏をお招きし、アフガニスタンで中村哲氏と活動をともした経験などをお話していただいた。なかなか聞くことのできない貴重な体験に基づくお話で、生徒は非常に感銘を受けていた。</p> <p>・アンケートの結果は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計の割合は昨年と同じ87%であったが、「よくあてはまる」の割合は34%から40%に増加した。来年度も生徒が求めるものや、生徒に必要なものを考慮して、講師や講演内容を吟味していきたい。</p> <p>・外部からの来校者に対してしっかりと挨拶をしている生徒がまだ少ないと感じている。</p> <p>・挨拶をしても相手に伝わっていないケースもあると考えられる。</p> <p>・LHや集会を通して繰り返し指導を行っていく。</p>

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
3	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	「他人の人格を重んじ、尊重する態度で接するとともに助け合う仲間づくりができる」と答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	[判定] B 96.4%	・昨年比1.4ポイント増であった。 ・40名の生徒が質問に対し、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答しており、学校内で良好な人間関係が築けない生徒がいることに留意しなければならない。 ・他者の言動を尊重し、承認する態度を育む指導を継続していきたい。
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図るとともに部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	県予選を通過しブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 21以上 B 17以上 C 13以上 D 13未満	[判定] B 19の部活動が 出場した	・昨年度は16部であったので、今年度は数が増えている。今年度は、文化部の上位大会進出が目立った。 ・部活動と勉学の両立を図り、短時間でも集中した活動になるように工夫するとともに、生徒がより主体的に活動する取り組みを推進していきたい。
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。 ・ゴミの分別・節水・節電	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 89.0%	・昨年度も89.0%であったが、内訳は「よくあてはまる」35%→40%、「ややあてはまる」、54%→49%と「よくあてはまる」と回答した生徒が増えた。 ・ごみの分別、節水、節電などは校内で行える活動であるため、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合をあげていきたい。そのためには、生徒一人一人が環境問題に関心を持ち、実践できるようにするための取り組みを考える必要がある。
	⑥ 読書推進活動と学習環境の整備に努め、学校図書館としての機能と魅力を高める。 委員会活動、購入図書の精選、広報活動、教科や調べ学習の場の提供などにより、貸し出し冊数や入館者数の増加をはかる。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	[判定] C 貸出冊数 3,773冊	・1,2年生については、今まで教科や課題研究に関する文献を図書室から借りていたものが、1人1台端末の配備により、インターネットで情報を得るようになったことから減少したと思われる。 ・次年度においては、適切なコロナ感染予防対策を講じながら、読書会やおはなし会などの企画をさらに充実させるとともに、1年生の図書オリエンテーションや読書感想画の課題などを通して、貸出冊数を増やすなど、魅力ある図書館づくりに取り組んでいきたい。
⑦ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にししながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるように支援する。	相談室を利用した生徒へのアンケート「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] D 49.0%	・12月末までに相談室を利用した生徒はのべ31名、実人数16名である。来室した生徒が少なかったため、判定の数値は「深刻な悩みが生じた場合、本校の相談室への相談が選択肢にあるか」という生徒全体への質問に対する結果である。相談者の傾向は、担任教諭および養護教諭の紹介で来室するケースがほとんどであり、相談を必要とする生徒は、まず体調不良を訴えることが多く、気軽な相談の場と言うよりは、担任教諭、保健室と連携し、サポートする役割の方が大きかった。今後の課題としては、アンケート結果により半数の生徒が相談室を利用しないと答えていることに対して、理由の分析と本校生徒に適した相談室の運営へと改善することが考えられる。	
学校関係者評価委員会の評価	挨拶は生徒の自己評価より実際は低い印象を受ける。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	挨拶は過去に比べると良くなっているが、まだ十分とは言えない。今後も継続して挨拶やマナーについて様々な場面で指導していきたい。			

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>4 「正義を愛し、社会から信頼されること」を踏まえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。</p> <p>・授業公開など学校公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。</p>	<p>① 保護者懇談会、PTA活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>今年度の「PTA総会」、「いしかわ教育ウィーク」・「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校合計数が、 A 1200人以上 B 1000人以上 C 800人以上 D 800人未満</p>	<p>〔判定〕 A 1,250人</p>	<p>・各行事の参加人数は、「PTA総会」679人、「いしかわ教育ウィーク」400人（保護者のみの参加）、「生き方講演会（保護者向けは動画配信）」は171人であった。 ・講演会は動画配信であったが、かなり視聴されており、保護者の関心の高さが窺える。 ・保護者が来校しやすく、学校をより理解していただけるような行事運営をこころがけたい。</p>
	<p>② 理数科1,2年生、SSH生徒プロジェクト係、SS部及び科学系の部所属の生徒が「金沢泉丘サイエンスグランプリ」、「創立記念祭における理科教室」等、自ら企画・運営・参加する機会を増やし、内容を充実させることで、科学教育を推進する。</p>	<p>「理科教室、金沢泉丘サイエンスグランプリおよび金沢子ども科学財団との連携プログラム、サイエンスフェスタ等SSHのプログラムに参加して、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」と回答するプログラムの参加者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>〔判定〕 B 第1回 63.5% 第2回 88.2% 第3回 100% 3回の平均 83.9%</p>	<p>・例年実施していた創立記念祭における理数科1年生主催の理科教室は、コロナ禍の影響で外部の方を招くことができなかった。 ・金沢泉丘サイエンスグランプリについては、5/7（土）、12/17（土）の2回実施した。特に、第2回は京都市立堀川高校との共同プロジェクトで、金沢市内の中学生を対象に探究的実験活動を行った。（中学生17名参加）いずれも物理部の生徒が中心となって企画、運営を行い、2/11（金・祝）第3回を金沢子ども科学財団と共催で実施した。外部との連携による上記のようなイベントは単年度で終わりではなく、持続・継続可能な取組として来年度以降も実施していきたい。</p>
	<p>③ 「学年だより」、「進路だより」等を通して、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。</p>	<p>「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>〔判定〕 B 1年 83.2% 2年 83.3% 3年 82.3%</p>	<p>[1年]学年だより2回、進路だより11回発行。また行事予定表を配布し、スケジュールを確認していただいた。アンケートには「子どもから便りが届かない」という意見もあり、何をどのように発信していくのか、継続して考えていきたい。 [2年]修学旅行時には、学校ホームページに現地から直接写真等を掲載し、生徒の様子がすぐに伝わるよう努めた。学習面については進路だよりを発行（11回）し、行事については学期毎に行事予定表を配付した。 [3年]「学年だより」3回、「進路だより」9回を発行 行事、生徒の様子、受験情報などを提供した。今後もより充実した内容のたよりを提供していく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>コロナ感染症による制限の中でも、なるべく平常と同じ学校行事を開催する努力がなされ、生徒が学校に行きたいと思う動機付けにもなっている。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>今後も積極的に情報発信を行い、開かれた学校づくりに努める。</p>		
<p>5 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。</p> <p>・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。</p>	<p>① 業務の見直し、密度の濃い会議運営など組織運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進める。これにより、教職員のワーク・ライフ・バランスをとり、教育活動の質の向上を図る。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>〔判定〕 A 93.4%</p>	<p>・月2回の定時退校日、部活動休養日、夏季休業中の学校閉庁日の設定、年休の積極的な取得に加え、職員会議などを勤務時間内に収める取り組み、自動採点ソフトの活用や会議のペーパーレス化などを通して、業務の効率化を促し、ワークライフバランスを取ることに意識向上に努めている。 ・4月から導入された生徒1人1台端末によって、教材などを送信したり、生徒へのアンケートを実施して、その結果をフィードバックしたりするなど、ICTの活用によって効率化が図られただけでなく、教育効果も向上していると考えられる。今後も、教材共有や教材開発など、教職員の負担を軽減しながら、教育活動の質の向上につながるような取り組みを組織的に構築していきたい。</p>
	<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>多様な生徒に合わせた指導は時間もかかるし心労もあると思うが、チームワークでよい方向に導いてほしい。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>多様な生徒個々への対応も大変になっているが、業務の中で削減できるところは工夫していきたい。</p>		